

終盤の“賢治を歌おう”コーナでは“種山ケ原”他 2 曲を全員で合唱，この種山ケ原は世界的に有名なチェコの作曲家ドヴォルザークの曲に賢治の歌詞を付けた歌でした。

そしてフィナーレは江東相撲甚句会の小原紘一氏が登場し，岩手の名所を歌詞に組込んだ相撲甚句を披露，花巻出身の元力士“勝盛”も舞台に上がり“ドスコイ ドスコイ”の声を威勢よく掛けていました。アトラクションのロス・ポラチョスと最後の相撲甚句は新味がありました。



ロス・ポラチョスの演奏



相撲甚句披露の小原さんと勝盛さん

そして閉会は予定の 14 時 30 分頃でした。

終わって見るとコロナ禍という中でも特に制約もなくよく纏まった“つどいの会”でした。



瀬川会長と



上田花巻市長と

会に参加して感じたことは何事も維持し続けるには相当のエネルギーが必要だという事でした。花巻人会は会員確保に力を入れるべくいろんな方策を掲げ，会報やイベント報告など SNS 等による情報発信及び交流を促進させる，そんな活動方針が令和 5 年度の計画に示されていました。

高齢化や会員減の問題は北上故郷会にも通じるなあと思いつつ，時代も変わり，考えるべきは我々世代と若い世代が抱くふるさと意識に大きなギャップが有ることを認識し，会を持続させるためには新たな視点で見ることが必要ではないかということですね……………。

(記：熊谷監事)